

阿南ぶらりまち紀行 ～地域の輝き～

第92回

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!

梅の郷 明谷梅林 売店

伝統と誇りを受け継ぐ梅の郷明谷梅林(長生町)



梅、桜、ホタル、紅葉と、四季折々で豊かな表情をみせてくれる明谷地区。なかでも3月はもつとも華やぐ。梅が満開となり、堂谷川沿いに白やピンクが浮かび上がる光景は息をのむ美しさ。梅が古くから明谷の象徴として市民に親しまれてきたのもうなずける。出迎えてくれるのは花だけではない。梅の馥郁たる香りを多くの人に届けたいと、梅林づくりに情熱の限りを注ぐ「梅の郷明谷梅林」の皆さん。春の訪れを喜ぶ屈託のない笑顔に出会うと、心はもう春色だ。

明谷梅林の歴史をひもとくと、1633(寛永10)年頃まで溯る。溪の端に自生していた数本の梅の木を愛した地元の人々が、苗木を作り育てたことに始まる。接木の技術も習得。梅の好相場が後押しし、次第に広がった。昭和37年の梅林開きには1万人の花見客が訪れるなど、明谷地区のシンボルに。後に、明谷梅林保存会が誕生し、長年にわたり梅林まつりが開催されてきた。しかし、農家数の減少や会員の高齢化などにより、継続を断念せざるを得なくなった。



危機的状況を救ったのは、長年まつりに携わってきた奥田國夫さん(70歳)のひと言だった。「どないぞならんか」。年齢を逆行させる尽きない意欲が周囲の心を動かした。新たに2人の会員を迎え、「梅の郷明谷梅林」として新たな船出を切った。

「花見の季節が来るたびに心躍らせてきた、あのワクワクする気持ちはどうしても忘れられなくて。観光の時代にあつて、止めてしまうのはもったいない。夢を持ち続けたい。体が動く限り頑張ろうと思います」

華やかな看板は意気込みの表れ。それに応えるように、地元の婦人会や市民ボランティアも応援に駆けつけた。伝統と誇りを受け継ぐ人々の思いに触れた時、新たな梅の魅力に出会えたような気がした。先人たちが思いを寄せ、曲折を経てきた梅林まつり。農園をどう守り、生かしていくか。問いかねは時代を超えて続く。